

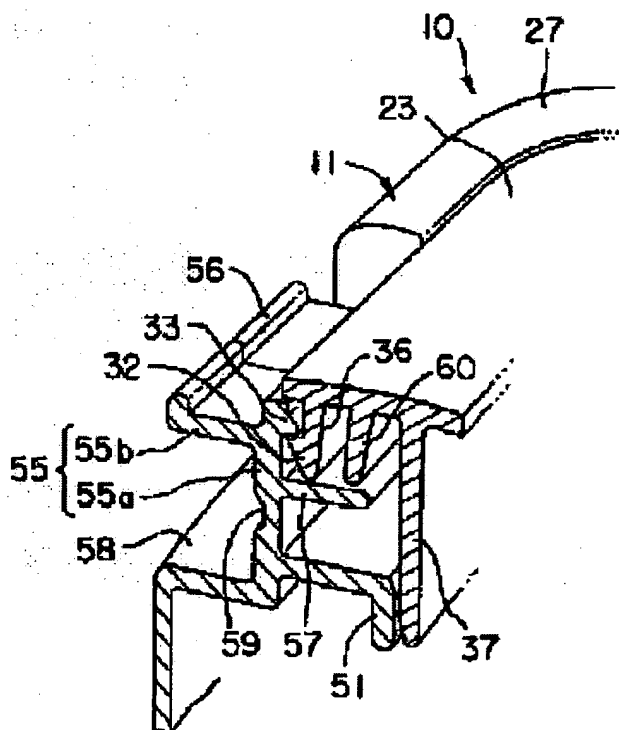
OPENABLE OR CLOSABLE CONTAINER

Patent number: JP2000025805
Publication date: 2000-01-25
Inventor: BANDO KENJI; TANAKA YOSHIKAZU; HAYASHI MASAYASU; TSUCHIMURA KENJI; UENISHI TOSHIHIKO; UEMATSU YUTAKA; AIZAWA HISASHI; SHINOKI NORIKAZU
Applicant: UNI CHARM CORP; DAINIPPON PRINTING CO LTD
Classification:
- international: B65D43/16; B65D43/26; B65D83/08
- european:
Application number: JP19980199274 19980714
Priority number(s): JP19980199274 19980714

Report a data error here

Abstract of JP2000025805

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide an openable or closable container in which an opening or closing lid can be easily and positively opened or closed in respect to a container main body. **SOLUTION:** An openable or closable container 10 is comprised of a container main body 11; an opening or closing lid 23 attached to the container main body 11 in such a way that the lid may be freely swung; and a bottom lid for sealing closing a lower opening of the container main body 11. A swinging section between the container main body 11 and the opening or closing lid 23 is provided with a plate rubber 50. An operating member 55 comprised of a vertical plate 55a and a horizontal plate 55b is arranged at a side of the container main body 11 where the free end of the container main body 11 is placed. The operating member 55 is provided with a pushing member 57 abutted against a pushing-up rib 60 of the opening or closing lid 23 to push up the opening or closing lid 23. The vertical plate 55a is provided with an engaging protrusion 33 engaged with an engaging piece 32 of the opening or closing lid 23.



Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 出願公開番号
特開2000-25805
(P2000-25805A)

(43) 公開日 平成12年1月25日 (2000.1.25)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テマコード (参考)
B 6 5 D 43/16	1 0 3	B 6 5 D 43/16	3 E 0 1 7
43/26		43/26	3 E 0 8 4
83/08		83/08	B

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願平10-199274

(22) 出願日 平成10年7月14日 (1998.7.14)

(71) 出願人 000115108

ユニ・チャーム株式会社
愛媛県川之江市金生町下分182番地

(71) 出願人 000002897

大日本印刷株式会社
東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号

(72) 発明者 坂 東 健 司

愛媛県川之江市川之江町2529-229 ロイヤルハイツ502

(72) 発明者 田 中 良 和

香川県観音寺市中田井町平塚632-13

(74) 代理人 100064285

弁理士 佐藤 一雄 (外3名)

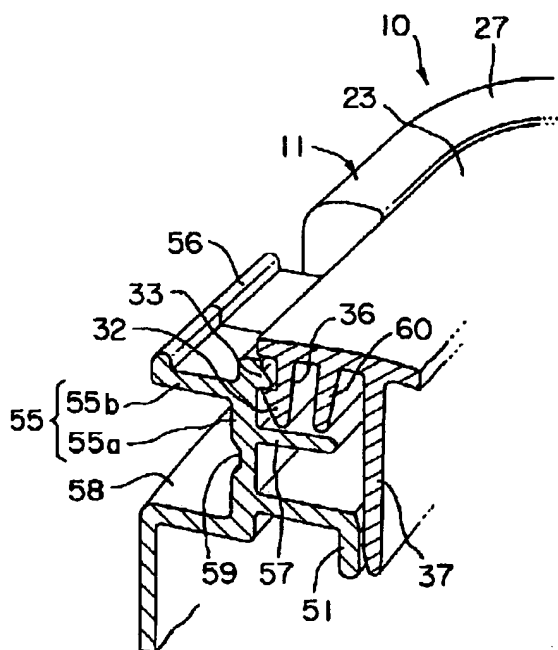
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 開閉自在容器

(57) 【要約】

【課題】 容易かつ確実に容器本体に対して開閉蓋を開閉することができる開閉自在容器を提供する。

【解決手段】 開閉自在容器10は容器本体11と、この容器本体11に揺動自在に取付けられた開閉蓋23と、容器本体11の下方開口を密閉する底蓋12とを備えている。容器本体11と開閉蓋23との間の揺動部分に、板ゴム50が設けられている。容器本体11のうち開閉蓋23の自由端側に、垂直板55aと水平板55bとからなる作動体55が設けられている。作動体55には開閉蓋23の押上リブ60に当接して開閉蓋23を押上げる押圧部材57が設けられている。垂直板55aには、開閉蓋23の係止片32に係合する係合突起33が設けられている。



【特許請求の範囲】

【請求項１】 取出口が形成された容器本体と、容器本体に揺動自在に取付けられ、取出口を密閉する開閉蓋と、容器本体と開閉蓋との間の揺動部に設けられ、開閉蓋を開方向に向って付勢する弾性付勢手段とを備え、開閉蓋の自由端に係止部を設けるとともに、容器本体に係止部に係合する係合部を設け、容器本体のうち開閉蓋の自由端側に、垂直板とこの垂直板から水平方向外方へ延びる水平板とからなる作動体を設け、垂直板に水平方向内方へ延びる押圧部材を設け、開閉蓋の裏面に押圧部材に当接して開閉蓋を押上げる押上げリブを設けたことを特徴とする開閉自在容器。

【請求項２】 垂直板の押圧部材より下方に、垂直板を撓ませるための薄肉部を水平方向に沿って設けたことを特徴とする請求項１記載の開閉自在容器。

【請求項３】 容器本体の係合部は、作動体の垂直板に設けられていることを特徴とする請求項１記載の開閉自在容器。

【請求項４】 押圧部材は水平板の延長上に配置されていることを特徴とする請求項１記載の開閉自在容器。

【発明の詳細な説明】

【０００１】

【発明の属する技術分野】 本発明は、容易に開閉することができ開閉自在容器に関する。

【０００２】

【従来の技術】 内容物、例えばウェットティッシュを内部に収納する容器は、ウェットティッシュの取出口を有するとともに、この取出口は開閉蓋により開閉自在に密閉される。

【０００３】 すなわち、このような容器はウェットティッシュを収納するとともに取出口を有する容器本体と、取出口を密閉する開閉蓋とを備えている。

【０００４】 使用に際しては、容器本体の取出口に対して開閉蓋が開かれ、容器本体の取出口からウェットティッシュが一枚ずつ取出される。

【０００５】

【発明が解決しようとする課題】 上述のように、従来の容器は容器本体と、この容器本体に対して揺動自在に取付けられた開閉蓋とを備えており、使用に際しては開閉蓋をいちいち揺動させて開いている。

【０００６】 このような場合、開閉蓋を確実にワンタッチで開くことができれば都合が良い。

【０００７】 本発明はこのような点を考慮してなされたものであり、容易かつ確実に開閉蓋を開くことができる開閉自在容器を提供することを目的とする。

【０００８】

【課題を解決するための手段】 本発明は、取出口が形成された容器本体と、容器本体に揺動自在に取付けられ、

取出口を密閉する開閉蓋と、容器本体と開閉蓋との間の揺動部に設けられ、開閉蓋を開方向に向って付勢する弾性付勢手段とを備え、開閉蓋の自由端に係止部を設けるとともに、容器本体に係止部に係合する係合部を設け、容器本体のうち開閉蓋の自由端側に、垂直板とこの垂直板から水平方向外方へ延びる水平板とからなる作動体を設け、垂直板に水平方向内方へ延びる押圧部材を設け、開閉蓋の裏面に押圧部材に当接して開閉蓋を押上げる押上げリブを設けたことを特徴とする開閉自在容器である。

【０００９】 本発明によれば、作動体の水平板を下方へ押圧することにより作動体が撓む。このとき垂直板に設けられた押圧部材が押上げリブに当接して開閉蓋を押上げる。このことにより、開閉蓋の係止部と、容器本体の係合部との係合が解除して開閉蓋が弾性付勢手段によって開かれる。

【００１０】

【発明の実施の形態】 以下、図面を参照して本発明の実施の形態について説明する。図１乃至図４は本発明による開閉自在容器の一実施の形態を示す図である。

【００１１】 図１乃至図４に示すように、開閉自在容器１０は、内部にウェットティッシュ４１（図４参照）を収納する下方開口型の容器本体１１と、容器本体１１の下方開口を密閉する底蓋１２とを備えている。また容器本体１１は取出口２４が形成された上板２７と、上板２７から下方へ延びる側板１３とを有し、容器本体１１の側板１３には上板２７の取出口２４を密閉する開閉蓋２３が揺動自在に取付けられている。

【００１２】 また容器本体１１の上板２７はその略中央部の第１上板（第１薄板）２７ａと、第１上板２７ａの外側に段部２８を介して設けられ、第１上板２７ａより高い位置にある第２上板（第２薄板）２７ｂとからなっている。また第１上板２７ａには、ウェットティッシュ４１を取出すための取出口２４が設けられ、取出口２４の周縁に周縁部２４ａが設けられるとともに、この周縁部２４ａは、下方部において曲線状の断面を有している。このためウェットティッシュ４１が取出口２４の周縁部２４ａを通過する際、周縁部２４ａに引掛ることなくスムーズに通過することができる。また第１上板２７ａには、取出口２４を囲んで外リブ５１と内リブ５２とが円周状に設けられている。

【００１３】 一方、第１上板２７ａには係合リブ５１が設けられ、開閉蓋２３の内面には、第１上板２７ａの係合リブ５１に係合する枠体３７が設けられている。そして、開閉蓋２３を揺動し、係合リブ５１に枠体３７を嵌込むことによって、開閉蓋２３が取出口２４を密閉するようになっている。

【００１４】 さらに図１に示すように、開閉蓋２３の自由端には先端リブ３６が突設され、この先端リブ３６に係止片３２が設けられている。

【0015】また、図1乃至図3に示すように、容器本体11のうち開閉蓋23の自由端側であって側板13上端近傍に、上板27から落ち込む落込段部58が形成され、この落込段部58内に垂直板55aが設けられている。垂直板55aには水平方向に延びる薄肉部59が形成され、さらに垂直板55aには水平方向外方へ延びる水平板55bが取付けられている。また垂直板55aの内面に、開閉蓋23の係止片32に係合する係合突起33が設けられ、垂直板55aと水平板55bとによって、開閉蓋23を開とする作動体55が構成されている。

【0016】次に作動体55について、図2および図3により更に詳述する。図2および図3に示すように、垂直板55aに水平方向内方に延びる押圧部材57が設けられている。図2および図3において、押圧部材57は水平板55bより下方に配置されているが、押圧部材57を水平板55bの延長上に配置してもよい。

【0017】また開閉蓋23の裏面には、押圧部材57に当接して開閉蓋23を押上げる押上げリブ60が設けられている。すなわち、作動体55の水平板55bを下方へ押し下げ作動体55を薄肉部59を中心として揺動させることにより、押圧部材57が押上げリブ60に当接して開閉蓋23を押上げて、開閉蓋23の係合片32と垂直板55aの係合突起33との係合を解除させるようになっている。

【0018】なお、作動体55を薄肉部59を中心として揺動させる際、垂直板55aが開閉蓋23から離れる方向へ移動するので、開閉蓋23の係止片32と垂直板55aの係合突起33の係合を容易に解除させることができる。

【0019】また、図2および図3に示すように、作動体55の水平板55b先端には、上方へ突出する指掛け突部56が設けられ、この指掛け突部56に指を掛けることにより水平板55bを確実に押し下げることができる。

【0020】なお、開閉蓋23の係止片32と係合する係合突起33は、必ずしも垂直板55aに設ける必要はなく、容器本体11の他の部分に係合突起33を設け、押圧部材57が押上げリブ60を介して開閉蓋23を押上げる際、係止片32と係合突起33との係合を解除してもよい。

【0021】また図示しない他の解除手段により係止片32と係合突起33との係合を解除してもよい。

【0022】また図1に示すように、容器本体11と開閉蓋23との間に、開閉蓋23を開方向に向って付勢する細長状の板ゴム50が設けられている。すなわち、容器本体11には、板ゴム50の一端を差込み収納する収納部75が設けられ、また開閉蓋23には容器本体11から所定間隔をおいて配置されるとともに板ゴム50の他端を固着する固着部76が設けられている。この場

合、板ゴム50に開閉蓋23の突出する突起78が挿入されて板ゴム50の位置決めが行われ、その後板ゴム50が固着部76によって固定される。

【0023】また図1に示すように、板ゴム50は容器本体11と開閉蓋23との間の中心に対して右側へずれて配置されているが、板ゴム50の取付位置は任意に定めることができる。

【0024】なお、上述した容器本体11および開閉蓋23は、いずれもポリプロピレン（PP）を用いたインジェクション成形により得られるが、この他にPE、PS、ABS、エラストマー、PET、PVC、ポリカーボネートを用いて成形してもよい。また底蓋12は鎖状低密度ポリエチレン（LLDPE）により成形される。

【0025】次に図4により、容器本体11内に収納されるウェットティッシュ41について説明する。図4

(a)に示すように、ウェットティッシュ41は柔軟なシートからなる密閉袋40内で折畳まれて積層配置され、この密閉袋40によって密閉される。各ウェットティッシュ41は折曲部42を形成して略二つ折りされ、各ウェットティッシュ41の折曲部42は交互に入れ替わっている。またウェットティッシュ41の二つ折りされた下半分41bは、下方に配置するウェットティッシュ41の上半分41aと更に下方に位置するウェットティッシュ41の上半分41aとの間に挿入されている。このためウェットティッシュ41を一枚ずつ摘んで取出した場合、取出したウェットティッシュ41の下半分41bが、下方に位置するウェットティッシュ41の上半分41aを引張り上げるようになっている。なお、ウェットティッシュ41の折り方は、連続的に取り出すことができるように積層配置されていればよく、特に限定されるものではなく、例えば図4(b)のような折り方であってもよい。また密閉袋40の上端に開口40aが設けられ、この開口40aは密閉袋40上面に取外自在に貼付けられた蓋片45により密閉されている。

【0026】ウェットティッシュ41の素材としては、例えば、不織布、紙、ガーゼ等の繊維素材やシート状の発泡体、または紙ベースの軟質材料が用いられる。またウェットティッシュに含浸させる液体としては、殺菌剤、消毒剤、洗浄剤等を含んだ湿潤剤や化粧水や乳液等の化粧品が考えられる。

【0027】次にこのような構成からなる本実施の形態の作用について説明する。まず、板ゴム50の一端が蓋本体21の収納部75内に差込み収納されるが、板ゴム50の他端は予め開閉蓋23の所定位置に突起78により位置決めされた後固着部76により固着されている。

【0028】次に容器本体11内にその下方開口から、密閉袋40によって密閉されたウェットティッシュ41が収納される。その後、容器本体11の下方開口が底蓋12により密閉される。

【0029】次に開閉蓋23が容器本体11に対して開

方向へ移動し、開閉蓋 2 3 の係止部 3 2 に容器本体 1 1 の係合突起 3 3 が係合して、容器本体 1 1 の取出口 2 4 が開閉蓋 2 3 により密閉される。このとき、開閉蓋 2 3 の枠体 3 7 が容器本体 1 1 の係合リブ 5 1 に係合して、枠体 3 7 内を密閉状態に維持する。

【0030】また図 1 に示すように、板ゴム 5 0 は容器本体 1 1 から所定間隔をおいて配置された固着部 7 6 により固着されているので、板ゴム 5 0 は開閉蓋 2 3 のうち揺動軸から少し内側に入った固着部 7 6 を作用点として開閉蓋 2 3 を上方へ持ち上げる。一般にウェットティッシュ容器 1 0 は夏場の室内等、比較的高温室内で用いられるため、容器本体 1 1 および開閉蓋 2 3 は軟化しやすくなっている。本願発明によれば、板ゴム 5 0 が開閉蓋 2 3 のうち揺動軸から少し内側に入った作用点を上方に持ち上げるので、揺動軸近傍を作用点とする場合に比べて開閉蓋 2 3 の揺動端の変形を防止することができる。

【0031】ウェットティッシュ 4 1 の使用時には、水平板 5 5 b の指掛け突部 5 6 に指を掛けて下方へ押圧し、作動体 5 5 を薄肉部 5 9 を中心として揺動させる。このとき垂直板 5 5 a の押圧部材 5 7 が押上リブ 6 0 に当接して開閉蓋 2 3 を押上げる。このことにより、開閉蓋 2 3 の係止片 3 2 と垂直板 5 5 a の係合突起 3 3 との係合を解除することができる。

【0032】その後板ゴム 5 0 の復元力により、開閉蓋 2 3 は揺動軸を中心として回転し、開閉蓋 2 3 が開となる。

【0033】次に容器本体 1 1 の取出口 2 4 からウェットティッシュ 4 1 を指で摘んで上方へ引張る。その後、連続して、ウェットティッシュ 4 1 を引張ることにより、第 1 番目のウェットティッシュ 4 1 を容器本体 1 1 内から取出すことができる。この場合、第 2 番目のウェットティッシュ 4 1 の上半分 4 1 a が、第 1 番目のウェットティッシュ 4 1 の下半分 4 1 b によって引張られる。そして、第 2 番目のウェットティッシュ 4 1 の上半分 4 1 a が、取出口 2 4 の周縁部 2 4 a に引掛かった時点で、第 2 番目のウェットティッシュ 4 1 が停止する。

【0034】以上のように本実施の形態によれば、水平板 4 4 b の指掛け突部 5 6 を下方へ押圧することにより、作動体 5 5 を薄肉部 5 9 を中心として揺動させるこ

とができる。このとき垂直板 5 5 a の押圧部材 5 7 により、押上リブ 6 0 を介して開閉蓋 2 3 を押上げる。同時に係合突起 3 3 と係止片 3 2 との係合を解除して、板ゴム 5 0 の復元力により開閉蓋 2 3 を確実に開くことができる。

【0035】

【発明の効果】以上のように本発明によれば、作動体を撓ませることにより、垂直板に設けられた押圧部材が押上リブに当接して開閉蓋を押上げる。このことにより開閉蓋の係止と容器本体の係合部との係合を解除することができ、開閉蓋を弾性手段により確実に開くことができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明による開閉自在容器の全体斜視図。

【図 2】作動体を示す詳細図。

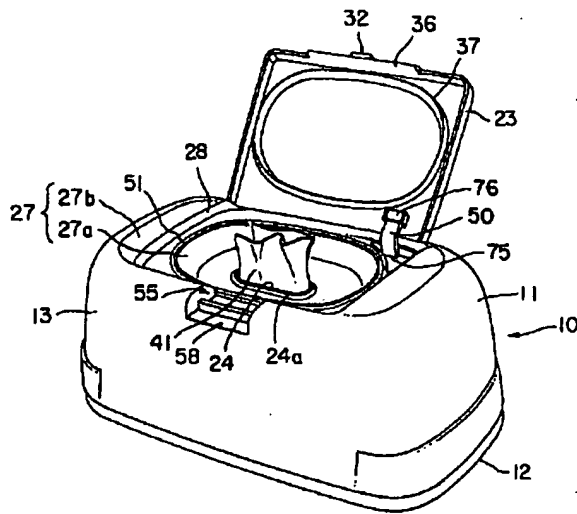
【図 3】作動体を示す詳細図。

【図 4】ウェットティッシュを収納した密閉袋を示す側断面図。

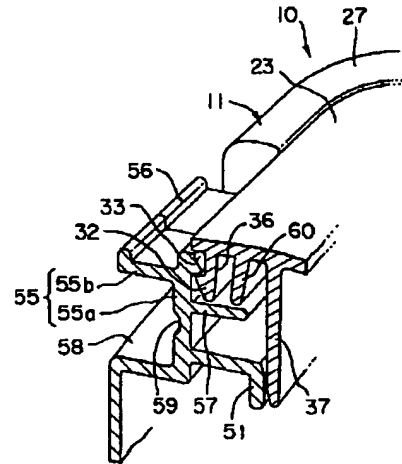
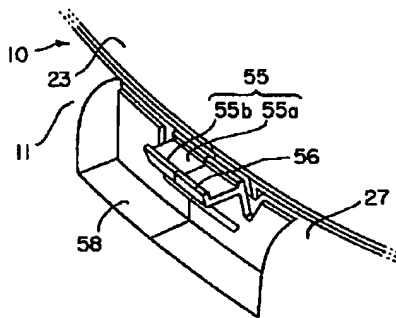
【符号の説明】

- 1 0 開閉自在容器
- 1 1 容器本体
- 1 2 底蓋
- 1 3 側板
- 2 3 開閉蓋
- 2 4 取出口
- 2 7 上板
- 2 8 段部
- 3 2 係止片
- 3 3 係合突起
- 3 7 枠体
- 4 0 密閉袋
- 4 1 ウェットティッシュ
- 5 0 板ゴム
- 5 1 係合リブ
- 5 5 作動体
- 5 5 a 垂直板
- 5 5 b 水平板
- 5 6 指掛け突部
- 5 7 押圧部材
- 6 0 押上リブ

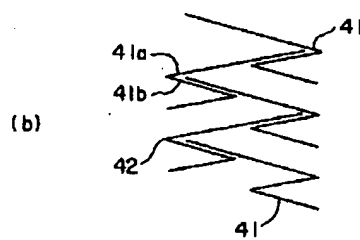
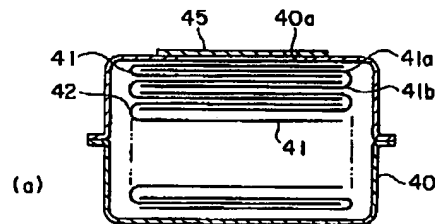
【図1】



【図3】



【図4】



フロントページの続き

(72)発明者 林 正 保
東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号
大日本印刷株式会社内
(72)発明者 土 村 健 治
東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号
大日本印刷株式会社内

(72)発明者 上 西 利 彦
東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号
大日本印刷株式会社内
(72)発明者 植 松 裕
東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号
大日本印刷株式会社内

(72)発明者 相 澤 恒
東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号
大日本印刷株式会社内
(72)発明者 篠 木 則 和
東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号
大日本印刷株式会社内

Fターム(参考) 3E017 BA02
3E084 AA05 AB10 BA02 CA03
CB02 CB03 CB04 DA03 DB13
DB14 FA08 FA09 GA06 GA08
GB06 GB12 GB17 GB26 HA03
HB01 KA16 LA18

BEST AVAILABLE COPY